

ソニー教育財団×ぐうたら村保育環境ゼミナール

「やってみよう！科学する心×いのち真ん中社会の保育実践」

『わたしの3年目のあゆみ』

社会福祉法人あゆみの会 鶴ヶ岡すまいる保育園 齋藤彩果

《初めに》

2023年4月から保育士3年目となりだいぶ保育の環境や仕事に慣れてきた一方、新しいことに挑戦する機会が少なくなり、自分自身をもっと高めたいと悩んでいた。そんなときに今回のソニー教育財団×ぐうたら村保育実践ゼミナール「やってみよう！科学する心×いのち真ん中社会の保育実践」を知り、挑戦することにした。

《時系列と実践内容》

① 2023年8月19日、20日 ぐうたら村での研修

→“水の循環”や“微生物たちによる分解の仕組み”などたくさんの知識を森での

フィールドワークを通じて学ぶことが出来たが、その中でも一生の仲間作りのきっかけとなった、1日目の夜に体験した「ゴムベラと竹布を使った食器の後始末」に興味を持ち、自園で実践することにした。



② 『ちいさなきっかけ～ちからはすぐちかくに～』で実践開始

→8月末の園内研修にて、「ゴムベラと竹布を使った食器の後始末」について写真と共に共有をした。

すると、「厨房で何か出来ることはない?」、「ゴムベラ何個か買って見たんだけど、どれでやってみる?」と職員から積極的な意見が聞かれた。

ただ、園内研修に参加出来なかった職員もいた為、ぐうたら村での体験を題材にした紙芝居を作り、10月上旬の園内研修で披露し再度共有をした。

すると、「いつも食器を自分で片付けているから、片付けるついでにゴムベラと

竹布取り入れられるね!」、「決まったこと LINE で共有するね」等と具体的な案と共に多くの職員が役割を分けて協力してくれた。そして、10月中旬から実践を始めた。

実践を通して…

☆提案する気持ちの大切さ

☆力を貸してくれる人は、自分の近くにたくさんいること

を学ぶことが出来た。



③ 2023年11月4日、5日 ぐうたら村で2回目の研修

→2回目のぐうたら村での研修を受け、“夏→秋の季節の移り変わり”や“自然と共存すること”について学んだが、その中でも「実りの秋は果実だけでなく種でもあること」、「自然にむだというものはないこと」に興味を持ち、夏から続いて

いた実践をさらに深めることが出来るのではないかと感じた。



夏のごぼうの姿



秋のごぼうの姿



④ 『自然×生活～むだってないのかも～』で実践再開

→「ゴムベラと竹布を使った食器の後始末」の実践に、食器の後始末で出た食べ残しと貯めた雨水を使った「コンポストの活性化」を追加する予定だったが、新園準備への参加が決まり継続的な実践が難しくなった。



⑤ 新園で出来ることはないかの模索

→12月下旬ぐうたら村での仲間に相談したところ、「実践だけではなく、**未来を**

考えた行動と捉えれば、新園でも出来ることがあるのではないか」とアドバイスを貰い、新園にいる子どもたちをじっくりと観察してみた。

すると、落ち葉やちょうちょ等動植物への興味が強く、風に揺れる葉っぱを見ながら「かぜそよそよだね」と言ったり、落ち葉や枝を使って「ぱちぱちいいおとと」たきびごっこや焼き芋ごっこを楽しむ姿があった。

そうした子どもたちの姿から「自然の音をもっと環境に取り入れたら、子どもたちの自然の不思議さや美しさへの興味がさらに育まれるのではないか」と感じ、テーマを変えることにした。



⑥ 『生活＋自然～いまにふれてみらいをたのしむ～』に変更し、実践再開

→1月上旬、レインスティックを使って子どもたちと雨の音に親しんだり、風を感じながらてをつなごうを楽しんだり等、音楽と自然物を取り入れた環境作りを意識して子どもたちと関わってみた。

すると、色々な植物の葉っぱの匂いを嗅いでみたり、雲が風で流れる姿に気付いたり等、子どもたち自ら自然を楽しむ姿が増えてきた。

また、「どうしていろんなはっぱがあるのかな？」等自然に対する疑問も増え、

子どもたち同士で考える姿も出てきた。

《実践を通して学んだこと》

このゼミを始めるときは想像もしていなかった結果となったが、それは自然にも共通しているのではないかと感じた。

地球温暖化を越えて地球沸騰化に向かっていることや自然災害の多発等、誰が今の自然の姿を想像出来ただろうか。

どんな場所でもどんな環境でもどんな子どもでも、科学する心を育てる7つのテーマにもあるように、“自然に触れ、感じた思いと共に未来について創造する、このサイクルこそが、今を生きる私たち、未来を生きる子どもたちに必要なのではないかと学ぶことが出来た。

保育に正解がないように、自然にも科学する心にも正解がない。

目の前にいる子どもたち、共に保育に携わっている職員たちと一緒に「今の地球・自然について」考え、向き合う取り組みを続けていきたいと思った。

また、今回のゼミに興味を持ったきっかけである「新しいことに挑戦したい」という気持ちは、子どもが日々の生活の中で起こる様々な事象に対して抱く興味

と同じで、大人になっても様々なことに興味を持ち続けるその姿を子どもたちに見せることで、子どもたちの豊かな探究心にも繋がるのではないかと、ぐうたら村での実体験から学ぶことが出来た。

